

外国人との 未来としまミーティング 報告書



豊島区

■ 目的

豊島区の新たな基本構想・基本計画の策定に向けた区民参画の一環として、
区民の1割以上を占める外国人の思いや考えを計画づくりに反映させるため。

■ 開催日時・場所

日時：令和6年8月8日（木） 18時00分～20時00分

場所：豊島区役所本庁舎 8階 レクチャールーム

■ テーマ

外国人が住みやすいまち

（事前にアンケートを行い、当日はその回答をもとに自由に意見交換を行いました。）

■ 参加者

・ 豊島区在住・在勤・在学の外国人 6名
（中国、フランス、ミャンマー、ネパール、台湾）

・ 区内の外国人支援団体等 4名



子どもの教育について

- 外国人にとって一番の問題は漢字の読み書き。話は理解できても申請書を記入することや、学校からのお知らせを読むのは難しい。
- 小学校、中学校、高校だけでなく、その先の大学や就職先をどのように探せばいいか不安に感じている。
- 保育園、幼稚園、小・中学校、高校でも生活ルール等に関するオリエンテーションが必要。
- 親が日本語を話せない場合、どこに相談すればよいのか分からない。
- 区に相談しても学校で日本語を勉強できる環境があれば十分と思っている人が多い。子どもたちが日本語以外の授業を理解できているか把握できる人がいないのでは？
- 外国人の子どもたちが日本の大学に行けず、海外に行くという事例があった。日本で教育を受けているのに海外に出てしまっただけではもったいない。学校に行っているから大丈夫だと思うが、一人ひとりの子どもがどういう状況なのか見なければいけない。
- 日本の学校の制度でも、外国人の児童・生徒の文化的背景も理解して、間に入って調整できるコーディネーターのような存在が必要だと感じる。
- 日本語が理解できないため、外国人の子どもや保護者とうまくコミュニケーションを取れないことがある。
- 児童が授業中に歩き回ることがあると聞くと、言葉が理解できないのか、文化の違いなのか、発達障害の問題なのか区別がすごく難しい。



区役所の窓口対応について

- 国によって保育園の仕組みが全然違うので、外国人が住民登録するときに、外国人への情報提供や困ったときの相談窓口の案内があれば、最初の一步としてお母さんたちも安心できる。
- 区役所に 7 月 1 日から外国人相談窓口ができたことを、色々な方法で周知してほしい。
- 区役所は困ったときに何でも相談できる場所ということを色々な方法で宣伝した方がよい。
- 外国人相談窓口はただのコーディネーターとしてではなく、コンサルタントとしての役割を期待する。
- 区役所が怖いと言う人もいるが、私はみなさん親切にしてくれるという印象。
- 日本語が分からないのに日本語で説明されて困ったことがある。
- 自分の国の言葉で話せると安心感がある。
- 以前と比べて、外国人向けの案内も多言語化され、外国人への対応も良くなった。
- 学校が警察や地域団体と連携して、危険なことが起きた時には、外国人にも分かるように知らせてほしい
- ゴミの出し方など、日本人には当たり前と思うことでも、外国人にはそうではないことがある。なぜ必要なのかを分かりやすく伝えてほしい。
- 自治体が税金を集めて公共サービスを提供する発想のない国の人たちは、税金を払うという感覚が理解できない。



区の情報発信について

- 区は、外国人に対して様々な言語で発信することが大事。
- 日本に来てからこれまで、行政が提供しているサービスや利用できる制度などの説明がなく、長年日本にいてもメリットを理解できないまま過ごしている。
そのような情報提供を受けられる場や機会があると良い。
- 今は多くの人がスマホを持っているので、ごみの出し方や子育てなど色々な情報を全部アプリで調べられるようになるととても便利になると思う。
- 区が様々な支援を提供していても、実際に信頼している人に確認をしないと、区役所には怖くて行くことができないという人もおり、口コミで情報収集を行っている外国人も多い。区役所からの情報が信頼できるものであることが共有できれば良いと思う。
- 外国人コミュニティ内で間違った情報が広まっていることもある。例えば、国民健康保険は入らなくてもいいと聞いて実際に入らない人もいる。
- インターネットで調べることもできるが、その情報が正しいかどうか分からない。
- ミャンマー人はFacebookをよく使う。区の情報を私たちがコミュニティ内で発信することもできる。
- 町会を通じて情報発信するといいと思う。

地域との交流・参画について

- 外国人は地域のコミュニティのつながりがなく、近所の方と会釈くらいしかしない。
- どうしたら町会に入ることができるか分からない。イベントやお祭りに遊びに行くことはできるが、コミュニティの一員になることはすごく難しい。
- マジョリティである日本人から声をかけてくれたらすごく嬉しい。
- 外国人が町会に参加できれば、地域に参加しているという意識が生まれる。子供たちが遊びに行ったら帰りが遅い場合も、誰かが見てくれているといった安心感もある。
- 地元(豊島区外)の町会のお祭りに参加し色々とお手伝いをしたことがある。そこでは、みんな一緒にここで暮らしていく仲間だと感じた。豊島区でもそういう環境作りが必要だと思う。
- 町会加入を促すチラシを配って外国人にアプローチするとかできたらいい。
- 同じ国のコミュニティがある人は色々相談ができるけど、ない人は大変だと思う。
- 学生寮に住んでいれば日本人と交流する機会があるが、ひとり暮らしだと近くの人とつながるのは難しい。



空き家活用について

- 人が住んでいない空き家はすぐに傷んでしまう。区が整備して人が住めるようにして貸し出せば、人口も増えて空き家もきれいになる。外国人が空き家を利用できる制度があれば良い。
- 空き家を利用して学生が住めるアパートのようなものがあれば、そこでコミュニティができて、日本人と外国人留学生双方にとって良いのではないかと思う。



その他のご意見

- 日本の人口が減ってきている中で、外国ルーツの子どもたちが増えている。これは日本にとって人口を増やすチャンスだ。5年、10年のスパンで豊島区はどうするのかを考えて計画を作してほしい。
- 日本で生まれた外国人の子どもは国の宝。日本人か、外国人かは関係なく、生まれた子どもは、日本で生まれた日本ネイティブであり、豊島区ネイティブである。だから子どもたちにはきちんと育てて欲しいし、そうでないと他所に行ってしまう。
- 外国人も日本社会の一員になりたいと思っている。この国の労働力になる訳なので、サポートをしてちょっと背中を押してくれると、日本はもっと豊かになると思う。
- ジェンダーとセクシャリティに関心がある。社会の中でどのように生きるのか、法律でどのように守られているのかという問題は、国籍に関わらず日本に住む全ての人の問題だと思う。
- 日本人が気付かない「外国人の視点」があるので、今日のように日本人と外国人が話をする機会は本当に大事だと思う。
- 行政と外国人の橋渡し役をしてくれる方々の存在が大切だと思う。





令和 6 年 10 月 編集・発行 政策経営部企画課
問い合わせ 03-3981-1782